

## 「蕨の会」2日目（A班：登城組）レポート

山岸敏夫（11組、大阪在住）

もう何年も前に、大河ドラマ「真田丸」で盛り上がっていた頃、関東に住む高校同期数名による関西への真田氏ゆかりの地訪問の案内を仰せつかり、大阪、九度山、高野山を巡った。それが縁で、その後、群馬の沼田、宮城の仙台の真田氏ツアーにも参加させてもらった。今回も、久しぶりの「蕨の会」で真田氏ゆかりの地巡りの最終回に加わった。松代と真田、とりわけ、真田町は私の故郷である。

4月9日に長野市に入り、時折寒風が吹くなか善光寺参りを済ませ、翌日10日の昼前、関東からの参加者11名と現地参加者2名と合流した。

初日の松代散策レポートは、神宮進君（10組）の別稿をお読みいただきたい。

翌11日は、真田町ツアーとなるが、米山、砥石城登城組と登城しない組に分かれ行動することになり、私は小山田、原田、関、浅倉各氏と5人で登城組に。

宿泊した松代荘から小山田君の車でスムーズに移動でき、8時40分頃には登城入り口に到着した。そこには既に車が数台止まっていて、早朝登山組がいることに驚いた。

この登城は小高い山を登り米山城こめやまに行き、少し下り砥石城へ長い階段を上って行くという体力のいるコースである。従って、体力に不安のある人は別行動となったのである。登り口案内板には「なめんなよ」という文字が。【写真2】

米山城へゆっくり登っていくと、以前にはなかった新ルート「姫道」が作られ登城者に配慮されていた。頂上で杖をつきながらリハビリとって登ってきた地元のお年寄りに写真のシャッターをお願いして、しばし雑談する。

それから砥石城への長い階段を登り、頂上からの眺めを楽しみながら地元のワイン談義などで盛り上がった。視界良好な時には富士山が見えると案内が出ていたが、残念ながら確認できなかった。

下山後は、非登城組と真田歴史館で合流して、「真田庵」でゆっくりと昼食。

昼食後は本城跡、長谷寺、山家神社、信綱神社などを見学して、真田を後に上田市内へ。上田城跡公園では桜の下を散策、母校の門の前で記念撮影後、打ち上げ宴会をして解散。

私は今回の旅行で、真田の高台から故郷を一望する機会に恵まれて感無量であった。

当日は上田に宿泊し、翌12日に東京経由で帰阪した。上田駅の土産屋では砥石城頂上で話題になったワインが売られていた。

松代と上田城の桜は満開近く、真田の高地はこれから、東京や大阪は散り始め。まさに往く春、来る春、春の真ただ中を味わった旅行であった。

（2024年4月13日記）

以下、写真3葉



【写真1：雪の北アルプスをバックに米山城跡にて 左から関、浅倉、小山田、山岸、原田】



【写真2：登山道入り口の「なめんなよ」の案内】



【写真3：砥石城から北アルプスを遠望】

以上